

# ユニバーサルデザイン2020行動計画

(H29.2.20 ユニバーサルデザイン関係閣僚会議決定)

平成29年7月

総合政策局総務課(総合交通体系)  
(併)政策統括官付



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

## ユニバーサルデザイン2020行動計画(抜粋)



### Ⅲ. ユニバーサルデザインの街づくり

#### 2. 具体的な取組

2)全国各地において、Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン等を踏まえた高い水準のユニバーサルデザインを推進

#### ⑤ICTを活用したきめ細かい情報発信・行動支援

障害のある人、高齢者等誰もが自立して移動できる環境を整備するためには、人的支援に加えて、必要な情報を分かりやすく提供することが不可欠である。情報バリアフリーの実現の観点から、従前の案内表示や情報提供を充実していくことは勿論であるが、これに加え、ICTを活用し、人々が身体的特徴等それぞれの移動制約に応じた情報を収集できる環境整備を推進する。なお、以下の取組を進めるにあたって、関係府省は、全体としての効果が最大となるよう、十分に連携を行う。また、タッチパネルの画面操作が困難な人等様々な状態の障害のある人に配慮した検討が必要である。

(具体的施策)

#### i)歩行者のための移動支援サービスの実現に向けた取組

歩行者のための移動支援サービスの実現に向けて、測位環境等の整備、バリアフリー情報の収集及びオープンデータ化を進め、G空間情報センター等を通じて提供するとともに、システムの構築に資するモデルケースとなる実証実験を行い、空港から競技会場まで屋内外シームレスな移動支援を可能にする民間サービスの創出を促進し、2020年(平成32年)までの実用化を目指す。

- GPSが使えない屋内・地下における測位環境を構成する機器について、公衆に開放された「パブリックタグ」としていくため、標準仕様を平成28年度末までに作成するとともに、パブリックタグの登録・設置を推進し、オープンデータとして公開する。[国土交通省]
- 歩行者の移動支援サービスの提供にあたって必要な歩行空間の段差や勾配等の情報や沿道施設のバリアフリー設備に関する情報について、情報を収集する際の仕様を平成28年度に改訂するとともに、多様な主体による効率的データ整備・更新手法について平成30年度を目途に検討を進める。これらの成果等を踏まえ、競技会場周辺エリア等においてバリアフリー情報を収集してオープンデータとして公開する。[国土交通省]
- 東京駅周辺、新宿駅周辺、成田空港、及び日産スタジアム(横浜国際総合競技場)をモデルケースとして、平成28年度に車椅子利用者等に対応した移動支援サービスの実証実験を実施する。平成29年度以降は、視覚障害者への対応等サービス内容の充実を図るとともに、民間事業者との連携を強化し、移動支援サービスの普及を促進する。[国土交通省]

## 46. オープンデータ環境の整備

○ストレスフリー社会の実現に向けて、ICTを活用した歩行者移動支援に必要なバリアフリー情報等のデータをオープンデータとして公開することにより、民間事業者が多様なアプリが開発できる環境を整備。2020年（平成32年）に向けて競技会場周辺エリア等において面的にデータを収集し、オープンデータとして順次公開。



## 2) 全国各地において、Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン等を踏まえた高い水準のユニバーサルデザインを推進

### ⑤ ICTを活用したきめ細かい情報発信・行動支援

#### i) 歩行者のための移動支援サービスの実現に向けた取組

・歩行者のための移動支援サービスの実現に向けて、システムの構築に資するモデルケースとなる実証実験を行うとともに、測位環境等の整備、バリアフリー情報の収集及びオープンデータ化を進め、G空間情報センター等を通じて提供することで、空港から競技会場まで屋内外シームレスな移動支援を可能にする民間サービスの創出を促進し、2020年までの実用化を目指す。

